



会議資料

世界インダストリアルデザイン会議

ICSID '73 KYOTO

世界インダストリアルデザイン会議

事務局：東京都港区浜松町2-4-1

世界貿易センタービル別館4階

TEL 432-7345,6

世界インダストリアルデザイン会議 ICSID '73 KYOTO

“人の心と物の世界” Soul and Material Things

日 程

1973年(昭和48年)10月11, 12, 13日 於 国立京都国際会館

意 義

世界インダストリアルデザイン会議=ICSID '73 KYOTOはICSID(国際インダストリアルデザイン団体協議会)の総会の日本開催を期に、アジアではじめて開かれる国際会議である。

私たちをとりまいている環境は、年ごとに多くの新たな問題を投げかけているが、同時にこれらが急速に発展した物質文明の中に、新しい精神文化を求める動きをともなっている。

人の心と物を結びつけ、生活に美と秩序を与えるのがデザインであり、現代にあって、デザインに課せられた責務はますます大きくなっている。いいかえればデザイン本来の求めるもの、現実の生活をみなおし明日の姿を描くことが強く望まれているということである。

広く社会の諸問題を総合的に把握し、混乱した社会に秩序を創り、そこに個々の像を生みだしていくことが求められている。

世界インダストリアルデザイン会議は、このような背景の中で、'73デザイナーの基幹事業のひとつとして、産業と生活を人間の視点から見つめ、人間の新しい生き方と思想の確立をめざした運動として開催される。そこに期待される成果は、高度な水準をもった産業技術によって、日本の文化と伝統に新しい一頁をつくり、世界の中に日本の新しい姿を示すことである。

構 成

会議は国立京都国際会館を主会場とし、デザインの発展に関心をよせるすべての人々の参加により開かれ、全体は3つの要素から構成されている。それらは、コンgress・ホール、コンgress・プラザ、コンgress・シティと呼ばれている。

コンgress・ホールは特別講演と本会議からなり、“人の心と物の世界”をメインテーマとして総勢100人のパネリストの参加により討議がかわされる。コンgress・プラザは世界中から集まる参加者一人一人のワークによって構成され、現在のデザインの課題や未来へ

の提案がなされる。このプラザが人々の直接的な触れ合いと討議の場となることを期待している。ここでは、参加者に **ICSID BOX** と呼ばれるメディアがプレゼンテーションの場として提供され、プラザメントとともに会議が、グローバルに展開されていく。

コンGRESS・シティーは、会議の枠を会議場ばかりではなく、会議を開く都市京都の中に広げようとする構想である。ここではサイクリング・シティーというかたちで、これからの市民生活、情報都市としての機能を満足させるためのニューライフを提案している。シティーの中で世界から集まったデザイナーや多くの参加者、そして市民が文化交流し、接し合い、都市の中へ溶けこむことによってこの会議に一層のひろがりや深さを与え、デザインの啓蒙へつながるべくその運動の永続的発展を積極的に目指そうとするものである。

主 題

“人の心と物の世界” —— 変化と相互連関の世界 ——

人間を豊かにするはずの物質文明が、その余りにも急激な発展のためにさまざまな問題を誘発し、影響を与え、そのはてしない発展の行く手にはある危機感すら感じられる。人々は豊かな物質文明の恩恵に浴しながらもその心の中には満たされないものを感じ、不安をいんでいる。この物質と精神の2つの領域のかかわり合いは、人間のこれからの行き方を左右する大きな問題といえよう。

この双方の分野に相互連関をもち、それを結びつけ、人々の心を豊かに満たす役割と責任をもっているのがデザインである。本会議では、自然、人間、社会、文化という4つの変化と相互連関の世界を通して、その本来の使命を見いだし、どう対処していくかが討議される。“人の心と物の世界”というテーマは、物と人との対話、精神と物質のかかわり合いの中から新しい生活の姿、社会の秩序が誕生することを期待して決定された。

このメインテーマは本会議でさらに次の小テーマによって、討議が展開される。

1. 自然 (環境 environment, 生体 living organism, 素材 materials)
2. 人間 (形態 aesthetics, 個性 individuality, 生態 identity)
3. 社会 (参加 participation, 移動 mobility, 進化 evolution)
4. 文化 (想像 image, 価値 value, 伝達 communication)
5. 教育分科会 (理念 learning, 地域性 regionality, 学生 students)
6. 特別分科会1 (デザイン政策 state policy)
7. 特別分科会2 (福祉 welfare, 災害救助 disaster,

開発途上国 developing countries)

ICSIDとは

ICSID(International Council of Societies of Industrial Design)

＝国際工業デザイン団体協議会は、1957年に設立され、現在35ヶ国57団体が加盟しており、UNESCO、UNIDO、GATT、ILOなどと協力し、国際的な活動をしている。

その目的は工業デザインをより高い水準へと発展させること、工業デザインの役割を進歩させ拡大すること、人類の精神と物質に影響を与えるさまざまな問題の解決をはかっていくことである。

その活動は、発展途上国のデザイン振興のための協力、工業デザイナーのレベルを向上させるためのインターデザインセミナー、デザイン教育について討議をかわす教育セミナー、各国のデザイナー共同によるプロジェクト開発、工業デザインについての国際規約や用語の制定など幅広い分野にわたっている。日本からは、(社)日本工業デザイナー協会、通産省工業技術院製品科学研究所、(財)日本産業デザイン振興会の3団体が加盟している。

現在、ICSID本部はベルギーのブラッセルにあり、1959年より、隔年ごとに世界の各都市で、総会と会議を開催してきた。これまで、スウェーデン、イタリア、フランス、オーストリア、カナダ、イギリス、スペインの各国で行なわれ、デザインのもつ共通の課題の発見とその討議を重ねてきた。このような活動を通してのICSID精神は、国連のめざす理念と軌を一にし、その支持を強く受けている。

事務局

東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル別館4階 〒105

電話：(03) 432-7345・7346

事務局長：木村一男

広報担当：島田一郎